

ITエンジニアの コアスキル



野村総合研究所
執行役員 品質監理本部長

いなだ よういち
稲田 陽一

「あなたのコアスキルは？」という問いに、自信を持って答えられるITエンジニアはどのくらいいるだろうか。優良とされるIT企業でも、その割合はそれほど多くないのではないかと。しかしそれは無理もないことである。なぜなら、ITと呼ばれる技術は多岐にわたり、進歩が速く、その上、システム構築にはIT以外の多くのスキルが必要となるため、ITエンジニアは何か1つのスキルをずっと磨き続けているわけにはいかないからである。

システム構築には大きく分けて3つのスキルが必要となる。1つ目はプログラミング、設計、テスト、ハードウェア、データベース、ネットワークなどのテクニカルスキル、2つ目はシステムの対象となる業務の知識をベースとした業務アプリケーションの構築スキル、3つ目は進捗管理^{しんちよく}、品質管理、課題管理などのプロジェクトマネジメントスキルである。ITエンジニアは、テクニカルスキルから始め、上流の設計工程を担当するようになると業務アプリケーション構築スキルを習得し、その後、チームリーダーといった立場になるとプロジェクトマネジメントのスキルを身に付けていくのが一般的である。

IT業界には長い間、職種やスキルの共通の定義は存在しなかったが、2002年に経済

産業省が「ITスキル標準（ITSS）」を公表して以降、各企業はこれに基づいて職種やスキルの再定義を行った。野村総合研究所（NRI）も、職種に当たるキャリアフィールドを従来よりも細分化した（図参照）。

NRIでは、新卒で入社するとシステムエンジニアかコンサルタントとしてキャリアをスタートさせる。システムエンジニアは、3～5年は基礎技術を磨き、その後、目指すキャリアフィールドを選択して必要なスキルを向上させていく。ただし、早くから1つに絞らず、なるべく多くのキャリアを経験してスキルの幅を広げることを推奨している。システムエンジニア卒業後は、アプリケーションやIT基盤のいくつかのキャリアを経験した上で、プロジェクトマネージャーやコンサルタントを含む多くのキャリアフィールドの中から自分の最終的な居場所を決めることになる。

ところが、最近、システムエンジニアとしての基礎スキルの習得もそこそこに、他のキャリアを経ることなくプロジェクトマネージャーを目指す若手社員が多いことに筆者は大きな危機感を抱いている。これには大きく2つの理由があると考えられる。

1つ目は、開発標準化の進展である。IT企業は、品質と生産性を上げるためにシステム

開発手法を徹底的に標準化し、誰が担当してもシステムが一定の品質を保てるようにし、実際の開発は海外の開発パートナーに委託してコスト低減を図ってきた。これは企業としては当然のことだが、社員の基礎スキルを磨く場を減らすことにもつながってしまい、社員の仕事がエンジニアリングからマネジメントに早い段階からシフトするのである。

2つ目は、社内での評価である。1990年代後半から、システム構築プロジェクトが大規模化したこともあってプロジェクトマネージャーという職種が脚光を浴びるようになった。NRIでも、研修制度などを充実させるとともに、2000年4月からプロジェクトマネージャーの社内認定制度を発足させた。大規模プロジェクトを成功させて認定者となれば高い評価を受けて早い昇進も望めるため、若手社員は早くからプロジェクトマネージャーを志向するのである。

当然というべきか、そうした若手社員が伸び悩むケースは少なくない。また、会社としても社員がプロジェクトマネージャーばかりでは困ることになる。例えば、開発標準化の仕組みは技術が変われば再構築しなければならないが、それにはアプリケーションのプロフェッショナルが必要である。

NRIでは、プロジェクトマネージャーで始めた社内認定制度を他のキャリアフィールドに順次拡張していったが、アプリケーション領域は、プロジェクトマネージャーへの通過点という見方もあり、昨年まで認定の空白地帯となってしまうていた。筆者を中心に必要性を訴え、ようやく2015年10月に、アプリケー

NRIのキャリアフィールド一覧

戦略コンサルタント
業務コンサルタント
システムコンサルタント
ストラテジスト
営業/アカウントマネジャー
プロジェクトマネジャー (新規)
プロジェクトマネジャー (エンハンス)
アプリケーションアーキテクト
IT基盤アーキテクト
アプリケーションスペシャリスト
アプリ共通基盤スペシャリスト
IT基盤スペシャリスト
ITサービスマネジャー
セキュリティスペシャリスト
研究員
データサイエンティスト
プロジェクト管理スペシャリスト
品質管理スペシャリスト
業務管理スタッフ
経営管理/本社スタッフ
システムエンジニア*
コンサルタント*

※新人からおおよそ5年目までを対象

ションアーキテクト、アプリケーションスペシャリスト、アプリ共通基盤スペシャリストを対象にした「認定アプリケーションエンジニア」が新たに設けられ、7名の認定者が生まれた。今号の特集に寄稿しているのはそのうちの2名である。

ここではITエンジニアについて記したが、NRIの総合力はコンサルタントを含めた多彩な人材に支えられている。全てのキャリアフィールドにおいて、「自分のコアスキルはこれだ」と胸を張って言える人材を1人でも多く育成していきたい。 ■